

I 調査結果の概要

1 平成22年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万6,200ha、球根類で505ha、鉢ものの類で1,859ha、花壇用苗もの類で1,569haとなっており、前年産に比べてそれぞれ300ha（2%）、33ha（6%）、11ha（1%）、38ha（2%）減少した。

出荷量は、切り花類で43億5,100万本、球根類で1億4,950万球、鉢ものの類で2億6,120万鉢、花壇用苗もの類で7億2,170万本となっており、前年産に比べてそれぞれ2億本（4%）、1,670万球（10%）、760万鉢（3%）、5,330万本（7%）減少した。

表1 平22年産花きの類別作付(収穫)面積及び出荷量(全国)

類別	作付(収穫)面積 ha	出荷量 万本(球・鉢)	対前年産比	
			作付(収穫)面積 %	出荷量 %
切り花類	16,200	435,100	98	96
球根類	505	14,950	94	90
鉢ものの類	1,859	26,120	99	97
花壇用苗もの類	1,569	72,170	98	93

- 注：1 対前年産比の算出に用いた前年産の全国値は、主産県を対象に調査を実施した結果を基に、前回の全国調査年（19年産）の結果から推計したものである。
 2 切り花類、鉢ものの類及び花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の「その他品目」を含んだ合計である（以下の表について同じ。）。
 3 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
 4 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗もの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万6,200haで、生産者の高齢化に伴う規模縮小等により前年産に比べて300ha（2%）減少した。品目別にみると、切り枝が増加したものの、きく等が減少した。

出荷量は43億5,100万本で、前年産に比べて2億本（4%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%、カーネーションが8%、ばらが7%となっており、この3品目で全体の約5割を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

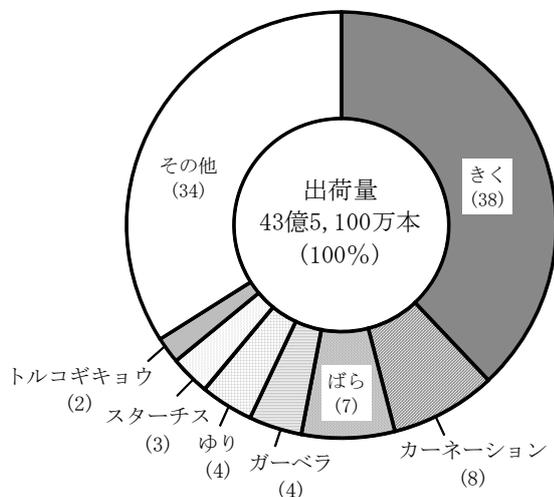


図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

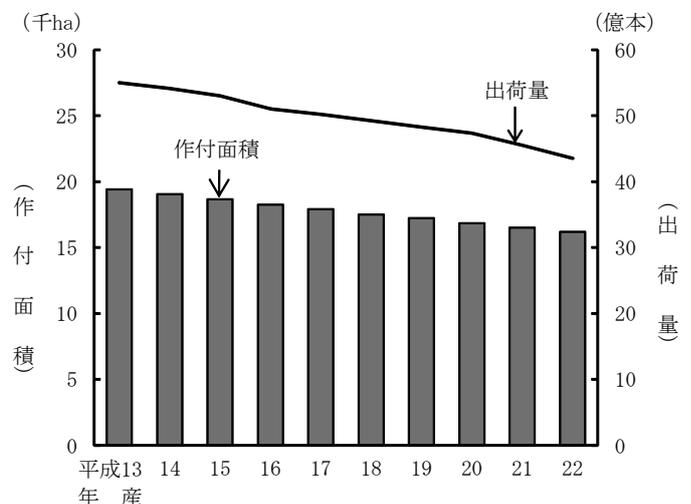


表2 平成22年産切り花類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	16,200	435,100	98	96
う ち ぎ	5,331	166,000	98	96
う ち 輪 ぎ	2,859	90,160	97	96
ス プ レ イ ぎ	786	27,380	99	96
小 ぎ	1,686	48,440	100	96
カ ー ネ ー シ ョ ン	390	34,330	96	93
ば ら	432	31,570	95	95
宿 根 か す み そ う	255	6,120	98	100
洋 ラ ン 類	167	2,050	97	97
ス タ ー チ ス	204	11,220	96	94
ガ ー ベ ラ	94	16,700	96	96
ト ル コ ギ キ ョ ウ	454	10,650	98	97
ゆ り	855	15,790	98	94
ア ル ス ト ロ メ リ ア	89	5,970	96	92
切 り 葉	763	17,370	99	98
切 り 枝	3,813	22,420	102	98

ア きく

作付面積は5,331haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて89ha（2%）減少した。出荷量は16億6,000万本で、前年産に比べて7,100万本（4%）減少した。これは、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が28%、沖縄県が19%、鹿児島県が8%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

また、品目別に見た出荷量の構成割合は、輪ぎくが54%、小ぎくが29%、スプレイぎくが17%となっている。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

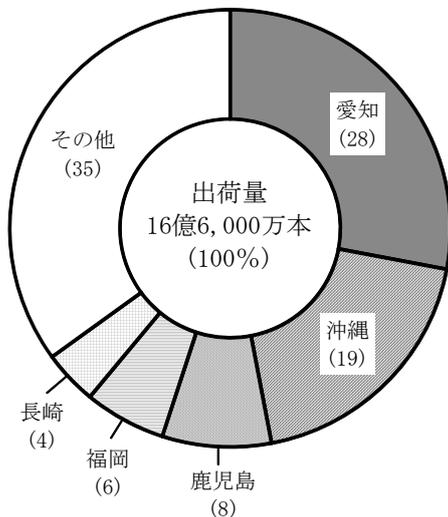


図4 きくの品目別出荷量割合

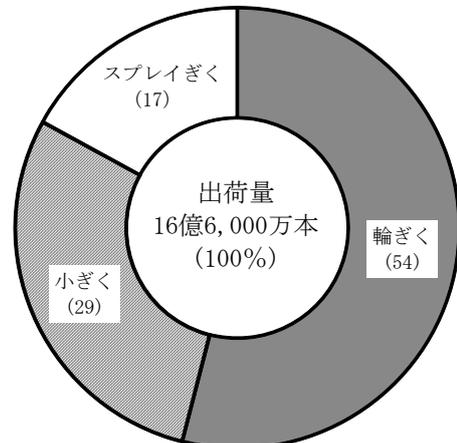


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

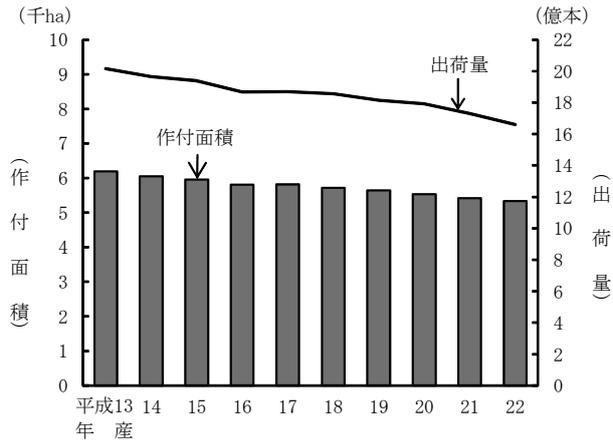


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

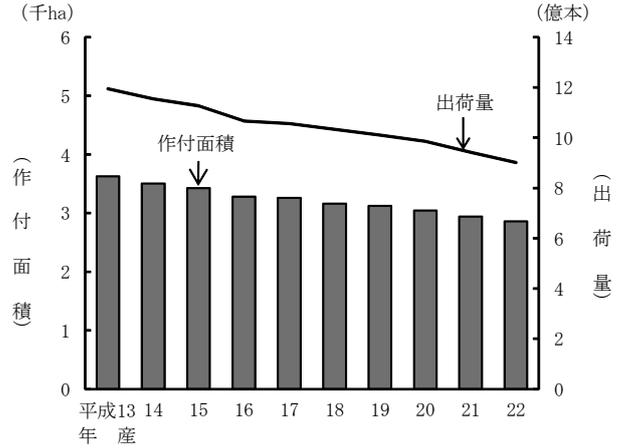


図7 スプレイぎくの作付面積と出荷量の推移

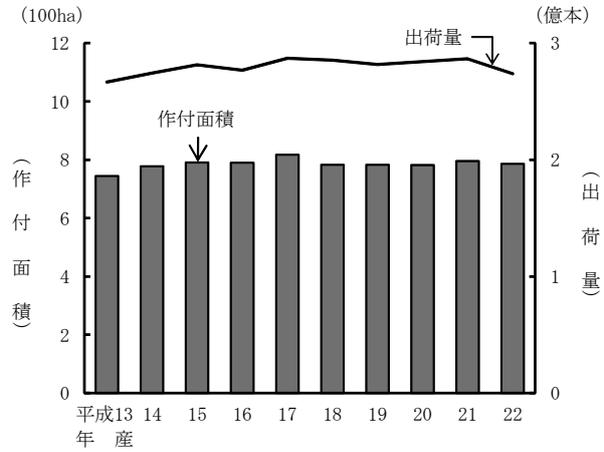
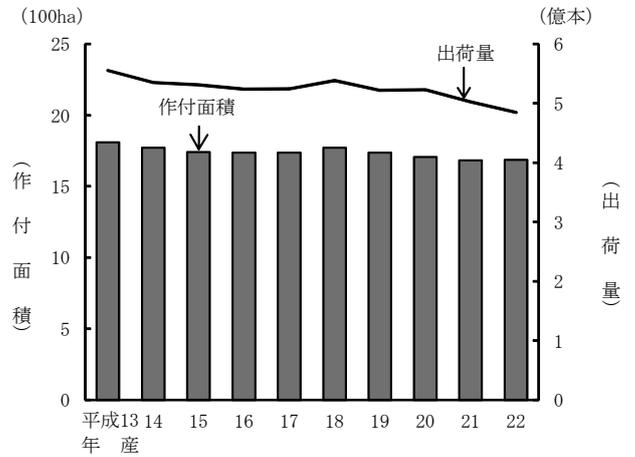


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は390haで、長野県等で減少したことから、前年産に比べて15ha（4%）減少した。

出荷量は3億4,330万本で、前年産に比べて2,390万本（7%）減少した。これは、春先の低温、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が18%、愛知県が17%、兵庫県が12%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

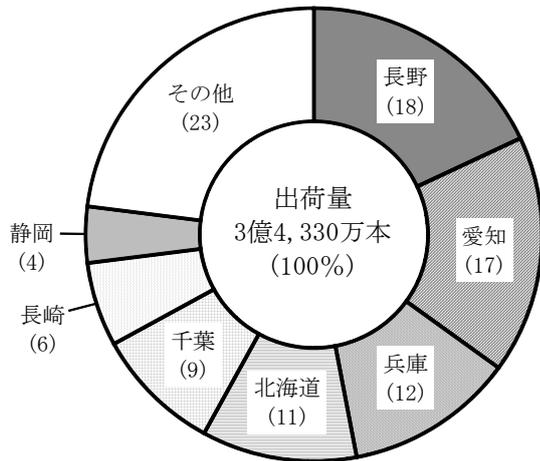
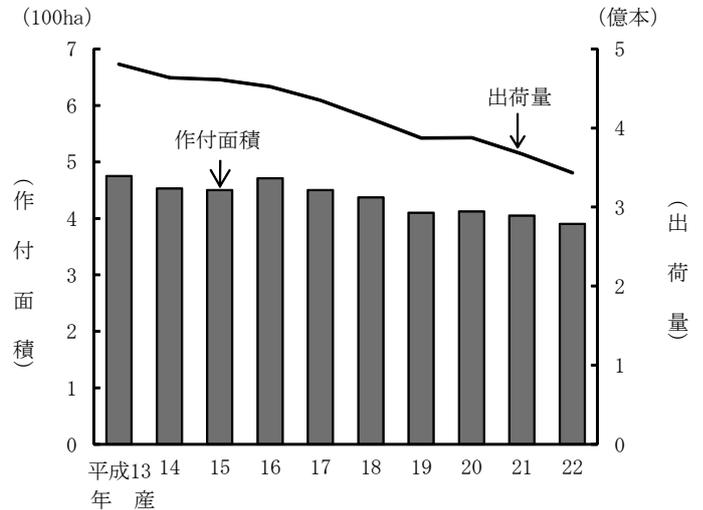


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



ウ ばら

作付面積は432haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて25ha（5%）減少した。

出荷量は3億1,570万本で、前年産に比べて1,500万本（5%）減少した。これは、作付面積の減少による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が16%、静岡県が9%、福岡県が6%、山形県及び神奈川県が5%となっており、この5県で全国の約4割を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

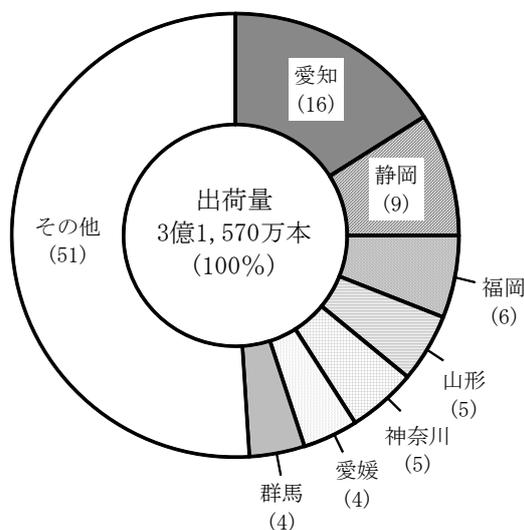
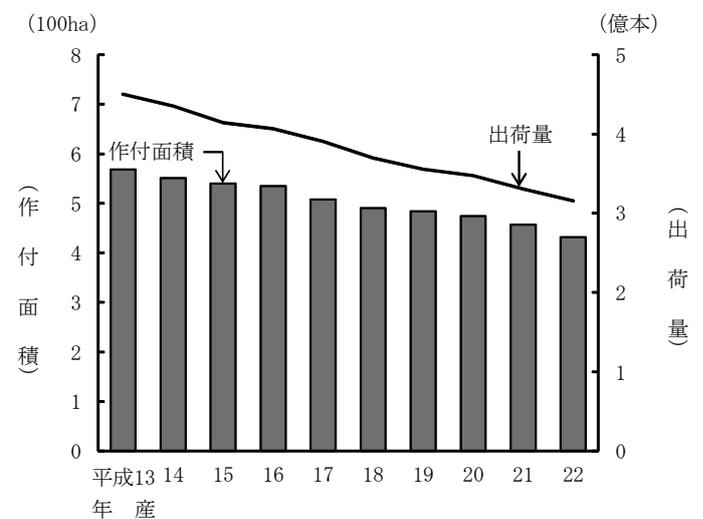


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



エ トルコギキョウ

作付面積は454haで、福島県等で減少したことから、前年産に比べて8ha（2%）減少した。

出荷量は1億650万本で、前年産に比べて300万本（3%）減少した。これは、夏期の高温の影響、病害の発生等があったことによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が12%、熊本県が11%、福岡県が9%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

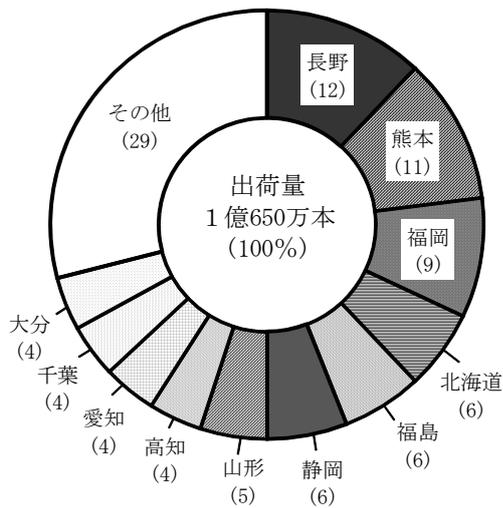
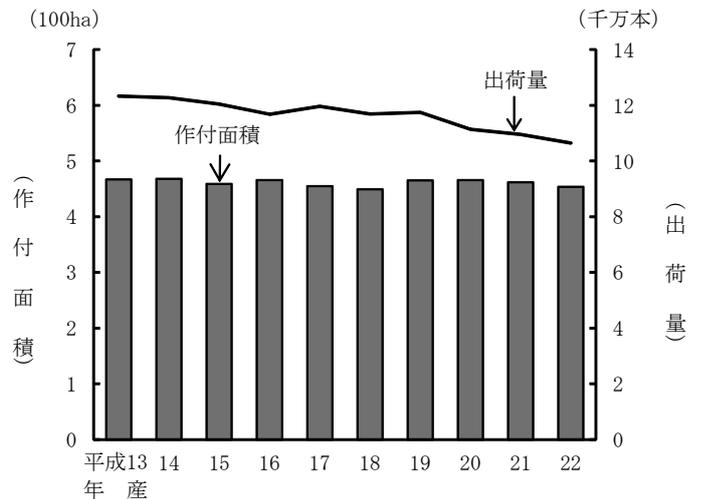


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



オ ゆり

作付面積は855haで、新潟県等で減少したことから、前年産に比べて14ha（2%）減少した。

出荷量は1億5,790万本で、前年産に比べて960万本（6%）減少した。これは、夏期の高温の影響、病害の発生等があったことによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が17%、高知県が13%、新潟県が10%、鹿児島県が7%となっており、この4県で全国の約5割を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

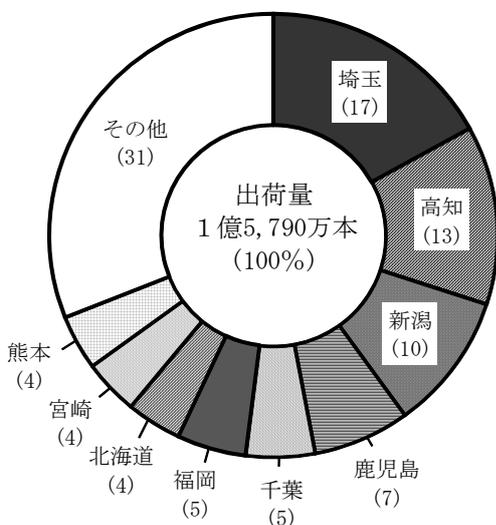
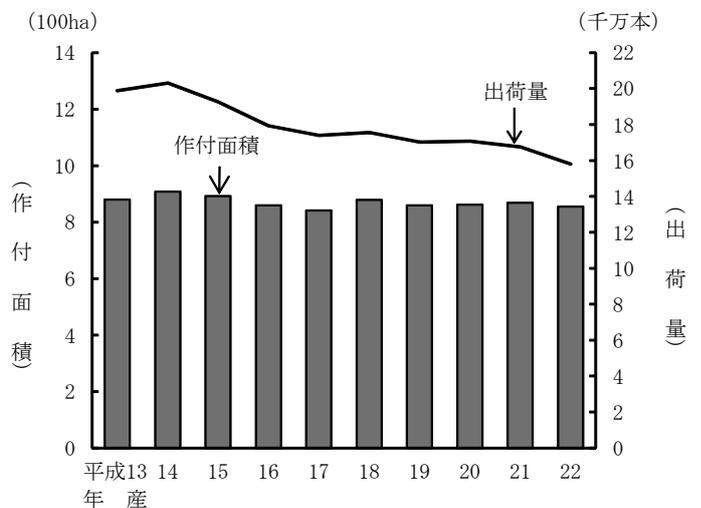


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は505haで、生産者の高齢化に伴う規模縮小等により前年産に比べて33ha（6%）減少した。

出荷量は1億4,950万球で、前年産に比べて1,670万球（10%）減少した。これは、収穫面積の減少、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が22%、新潟県が19%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

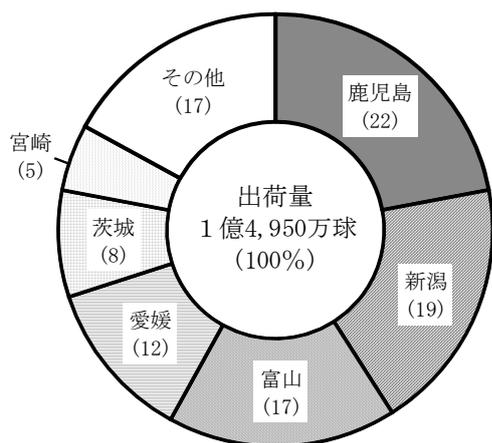
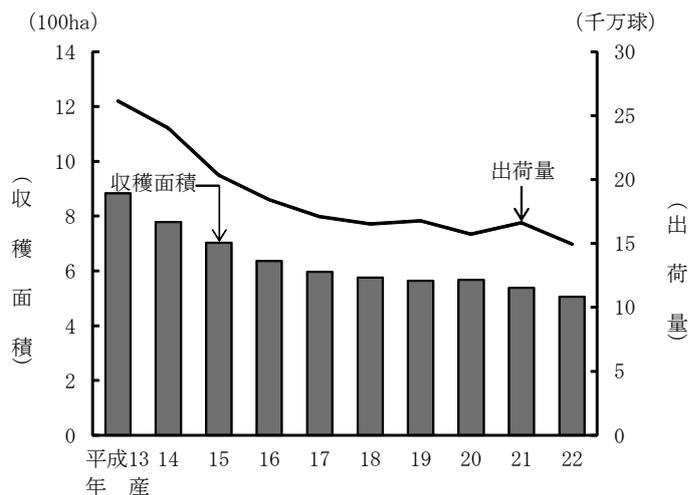


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,859haで、生産者の高齢化に伴う規模縮小等により前年産に比べて11ha（1%）減少した。品目別に見ると、観葉植物が増加したものの、シクラメン、洋ラン類及び花木類が減少した。

出荷量は2億6,120万鉢で、前年産に比べて760万鉢（3%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が19%、観葉植物が17%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっており、この4品目で全体の約5割を占めている。

表3 平成22年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量(全国)

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,859	26,120	99	97
うちシクラメン	212	2,040	99	97
洋ラン類	238	1,740	97	90
観葉植物	330	4,510	104	106
花木類	418	4,930	98	102

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

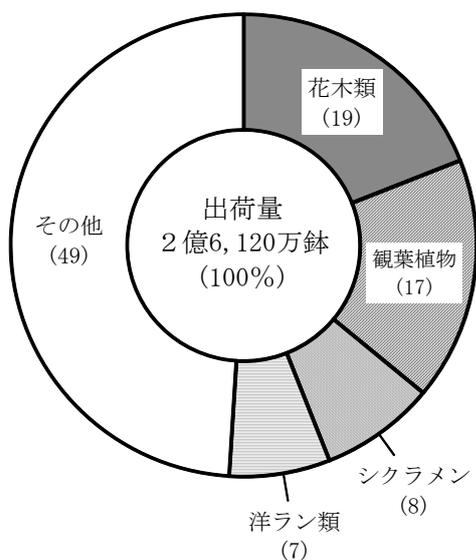
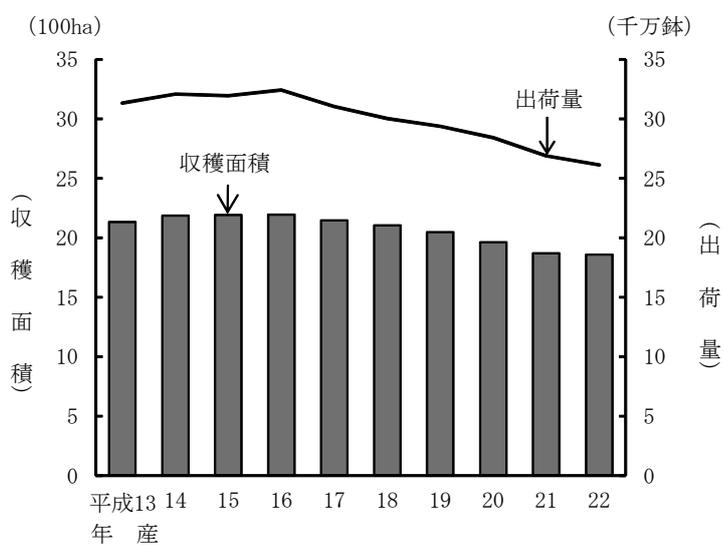


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は212haで、埼玉県等で減少したことから、前年産に比べて2 ha（1%）減少した。

出荷量は2,040万鉢で、前年産に比べて70万鉢（3%）減少した。これは、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が14%、愛知県が12%、栃木県が6%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

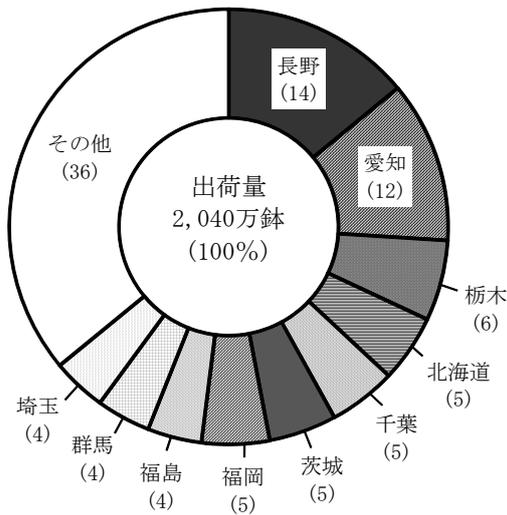
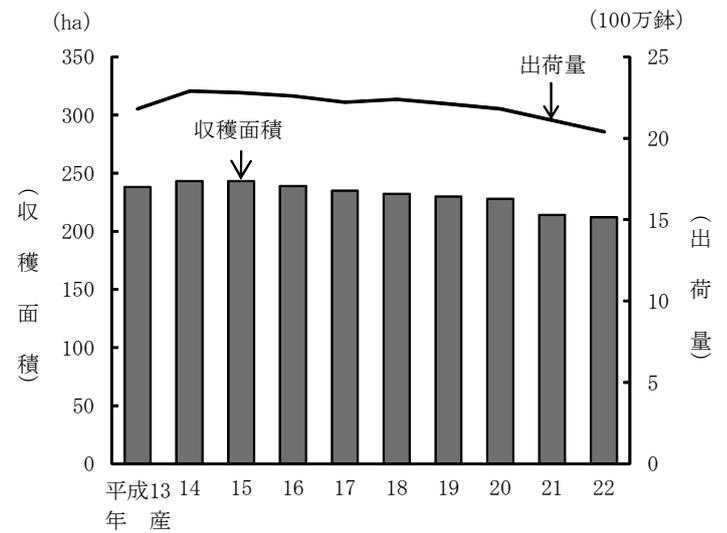


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は238haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて7 ha（3%）減少した。

出荷量は1,740万鉢で、前年産に比べて190万鉢（10%）減少した。これは、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が22%、福岡県が11%、熊本県が10%となっており、この3県で全国の約4割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

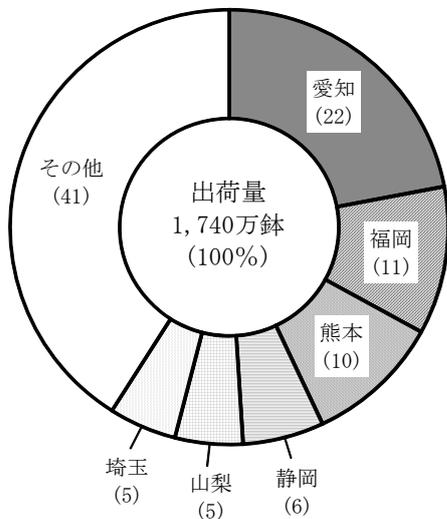
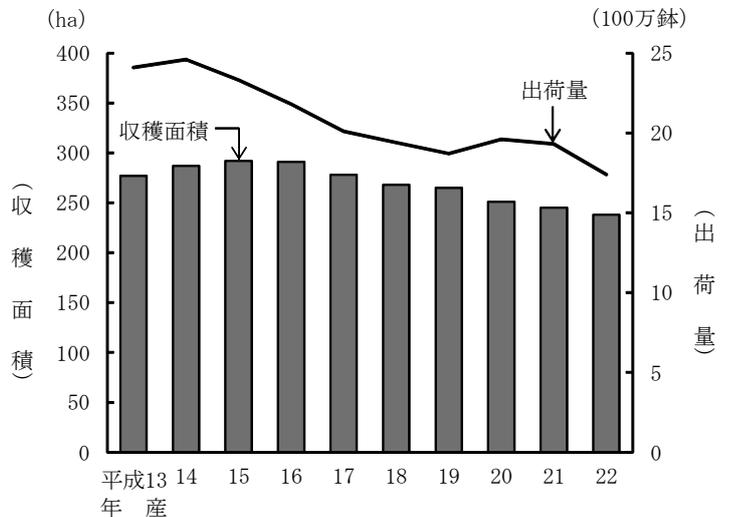


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,569haで、野菜苗への転換等により前年産に比べて38ha（2%）減少した。

出荷量は7億2,170万本で、前年産に比べて5,330万本（7%）減少した。これは、春先の低温、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が9%、千葉県が8%、埼玉県が7%、福岡県及び奈良県が5%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

表4 平成22年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
花 壇 用 苗 も の 類	1,569	72,170	98	93
う ち パ ン ジ ー	314	16,370	96	93

図25 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

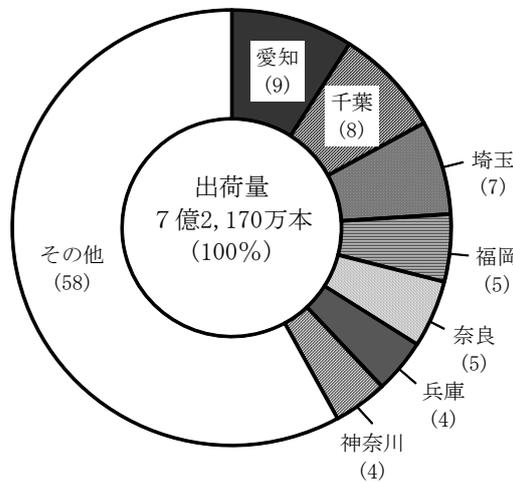
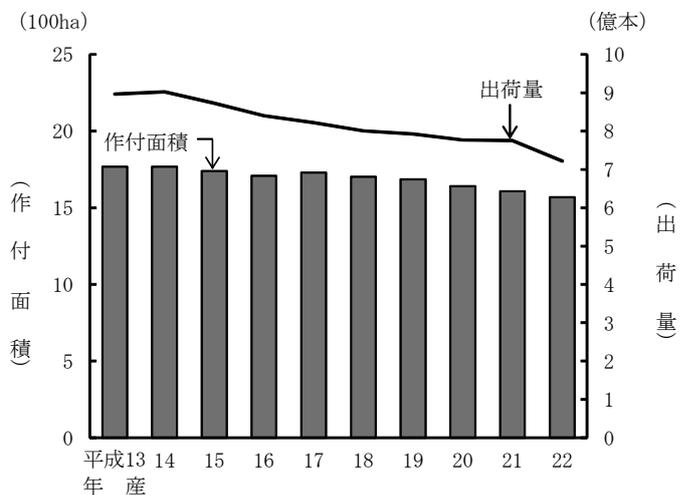


図26 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移



パンジー

作付面積は314haで、埼玉県等で減少したことから、前年産に比べて13ha（4%）減少した。

出荷量は1億6,370万本で、前年産に比べて1,300万本（7%）減少した。これは、春先の低温、夏期の高温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が7%、奈良県、千葉県、神奈川県及び愛知県が6%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

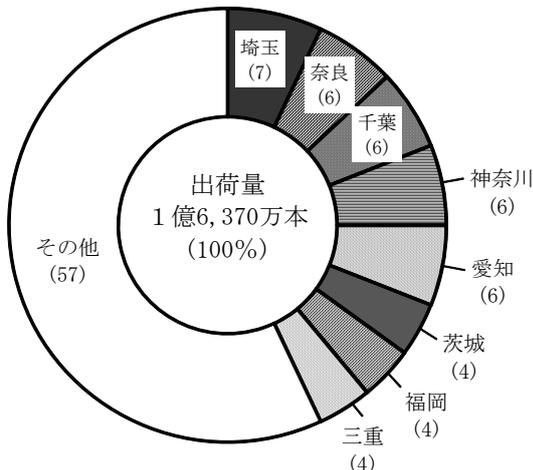


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

